

..... 編集後記 .....

◆ 3月末の有珠山の噴火に続いて、6月下旬には三宅島で火山性地震が多発し、火山活動も活発化しています。その活動が引き金となったのか、7月に入ると三宅島近傍の新島、神津島近海を中心とする地震活動が始まり、テレビやラジオの地震速報は、時にはほとんど休む間もない程連続的に、震度3、震度4というような速報を流し続けました。磯部一洋さんは新島のご出身で、この夏、帰省を兼ねて新島へ行かれ、地震被害の様子を調査し地質ニュースに速報して下さいました。ところで、本文中にもある伊豆七島とは、どの島を指すのでしょうか。地図で見ますと、とても7つどころではありません。気になって手許の大きな辞書(大辞林第二版)で調べてみました。それによりますと、伊豆七島とは大島、利島、新島、神津島、三宅島、御蔵島、八丈島の七島なのだそうです。

◆ 昨年9月末に起こったウラン燃料加工施設での臨界事故。ニュースを見たり聞いたりした時に、いろいろな単位が出てきて中々具体的なイメージがつかみ難かったように思います。ラジウムの地球化学と題して書いて下さった金井さんに、単位について簡単なコラムを書いていただきました。また、本文中で触られている北投石(ほくとうせき)。これは、岡本コレクションの岡本要八郎氏が命名者で、地質標本館にも展示されております。標本館に来られるチャンスがございましたら是非ご覧になって下さい。

◆ 「現代地球化学の父：ゴールドシュミット」、その6(第8章)をお届けいたします。写真や図のバランスから分割しづらく、少し長めになりました。ゲッチングンをおわれたゴールドシュミットの、オスロでのあまり愉快でない日々、1942年12月、ドイツに占領された危機的なノルウェーからスウェーデンへ脱出するまでが描かれています。余談ですが、エスコラ宛の1939年11月の手紙に、「私のような老人の平和愛好者としては」という下りがあります。たしかゴールドシュミットは老人という程の歳にならないうちに亡くなったはずだかと思ひ、生年を確かめてみますと、この時彼は51歳、今の私と同年でした。これは翻訳語が適切ではないのではないかと、編集事務局の河村君に話しましたところ、曰く、「その頃は51歳って老人なんじゃないですか」。

◆ 大阪地域地質センターの小村良二さんは、8年間にわたる砕石資源調査結果に基づいて、近畿地方及び周辺地域の砕石資源と砕石場についてまとめて下さいました。

◆ 須藤定久さんの風化花崗岩の話は、8月号から連載している東海地方の窯業原料シリーズの一環です。全体のページ数の都合で本号には1編しか掲載できませんでしたので「特集」とは銘打っておりませんが、これも鉱物資源図「中部近畿」の一部に含まれます。

◆ 流行りの言葉でいいますと「今世紀最後の地質調査所研究講演会」の紹介記事を、資源エネルギー地質部の森下祐一さんに書いていただきました。平成6年度末に地質調査所に導入された、二次イオン質量分析装置を使った研究成果の紹介です。11月29日(水)、例年通り東京三会堂ビルの石垣記念ホールで開催いたします。是非お出かけください。

(湯浅真人)

地質ニュース編集委員会

委員長：湯浅真人

副委員長：石井武政

委員：星住英夫・飯笹幸吉・七山 太・佐々木宗建  
 佐藤興平・大熊茂雄・前川竜男・木下泰正・  
 中野 司・遠藤祐二

事務局：総務部業務課広報係(渡辺光次・河村幸男)  
 〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3  
 地質調査所 地質ニュース編集委員会  
 事務局 Tel. 0298-61-3520  
 Fax. 0298-61-3569

地質ニュース	第554号	2000年	10月号
	定価¥785(本体価格¥748)	〒実費	
	2000年10月1日	発行	
編集	工業技術院地質調査所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03) 3265-0951(代表)		
	Fax. (03) 3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

© 2000 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターおよびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ